

うなぎさんの事例

※令和6年10月改訂

◇基本情報

◇状況経過



テーマ：子どもから高齢者まで多様な課題を抱える家庭に対して地域でどのような支援ができるかを考える

浜松 うなぎさん 基本情報（その1）

* 地域包括支援センターが把握した情報

相談日	〇〇年〇〇月〇〇日（〇）	来所・電話 その他（訪問）	初回 再来（前 / ）		
本人の現況	在宅・入院又は入所中（ ）				
フリガナ 本人氏名	浜松 うなぎ	男・女	年齢	身長	体重
			80歳	165 cm	53 キロ
住所	浜松市●●区●●町	Tel Fax	（ ） （ ）		
日常生活 自立度	障害高齢者の日常生活自立度	自立・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2			
	認知症高齢者の日常生活自立度	自立・I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M			
認定情報	非該当・要支1・要支2・要介1・要介2・要介3・要介4・要介5 有効期限： 【新規】（今後申請を予定）				
障害等認定	身障（ ）、療育（ ）、精神（ ）、難病（ ）				
本人の 住居環境	自宅・借家・一戸建て・集合住宅、住宅改修の有無 2階建ての家で階段あり。うなぎさんと妻が1階和室を寝室としている。 長男は2階の自室に籠っていることが多い。				
経済状況	国民年金・厚生年金 19 万円/月・共済年金・障害年金・遺族年金・生活保護				
関係家族等	氏名	続柄	備考		家族構成・家族状況 次ページ参照
	A子 (72歳)	妻	介護保険利用なし 物忘れが進行している (認知症自立度IIa)		
	B男 (50歳)	長男	30歳頃から自宅にひきこもりがち		
	C男 (45歳)	次男	同じ町内に居住、歩いて行ける距離 会社員		
	D子 (43歳)	次男 の妻	軽度知的障害、療育手帳 B2 所持、パート勤務		
	E子 (12歳)	孫	次男の娘 中学1年生		

※日常生活自立度の定義

【うなぎ】◆障害高齢者の日常生活自立度 J2

何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。
・杖を使用し、近隣地域であれば自力で外出することができる。

【A子】◆認知症高齢者の日常生活自立度 IIa

日常生活に支障を来すような症状。
・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
・家庭外で上記の状態が見られる。

【D子】◆療育手帳 B2

おおむね IQ51 以上 70 以下。
・ただし、著しい知的バランスの崩れ、社会生活能力の遅れ等により、社会適応が困難であり、手帳に該当させることが適当と認められる場合に限り、知的能力の上限を IQ79 とする。

浜松 うなぎさん 基本情報（その2）

《介護予防に関する事項》

うなぎさんの 今までの生活	若くして両親を亡くしたため、年の離れた兄が親代わりとなり高校を出してくれた。高校卒業後、市内の自動車関係の会社に就職、定年退職を迎えるころには役員を務める。仕事中心の人で、日曜日も会社に出勤して仕事をしていたため、子供からは、父親と遊んだ記憶がほとんどないと言われている。		
現在の生活状況（どんな暮らしを送っているか）	1日の生活・すごし方		趣味・楽しみ・特技
	大腸がんと診断されているが、現状は安定している。月1回受診して治療を続けているが、最近はずっかり元気をなくし、食欲もなく、ひきこもりがちな生活となっている。		新聞は毎日欠かさず、時間をかけて隅から隅まで読む。健康のため、毎日30分程度の散歩を行っていたが、現在は行っていない。
	時間	本人	
	5:30		
	6:00	起床	
	7:00	朝食	
		新聞を読む	
	12:00	昼食	
	14:00	ゴロゴロ過ごす	
	17:00	夕食	
18:00	入浴・テレビ		
21:00	就寝		
			友人・地域との関係
			もともと社交的ではなく、近所の人に会えばあいさつをする程度。民生委員とは知り合いであるが、家族の状況について話したりはしていない。

《現病歴・既往歴と経過》（新しいものから書く・現在の状況に関連するものは必ず書く）

年月日	病名	医療機関・医師名 (主治医・意見作成者に☆)		経過	治療中の場合は内容
50歳頃～	高血圧	H内科医院		Tel 治療中 経観中 その他	降圧剤の服薬有 月1回受診
70歳頃～	歯周炎等	K歯科医院		Tel 治療中 経観中 その他	義歯不適時等に不定期受診 最近歯周炎が悪化し痛みが出ている
80歳頃～	大腸がん	I総合病院		治療中 経観中 その他	月1回受診。

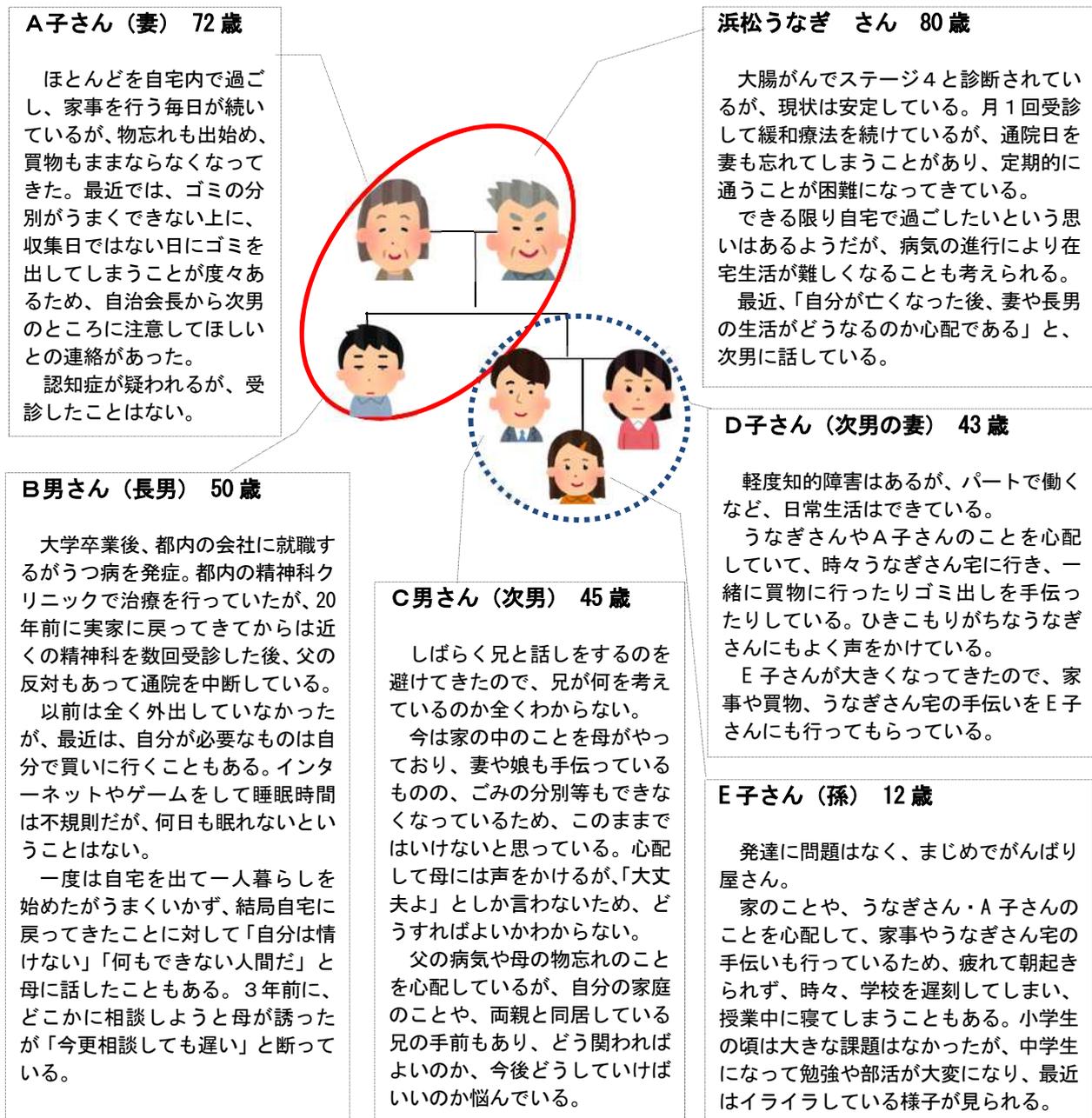
《現在利用しているサービス》

公的サービス	非公的サービス
特になし	D子さんとE子さんがゴミ出しや買物などを手伝っている

うなぎさんの状況経過

- 5か月前 体調不良でかかりつけ医に受診したところ、精密検査を勧められI 総合病院に受診
- 4か月前 精密検査の結果、大腸がんと診断が出る。他臓器への転移が認められ、手術はできない状況。
- 3か月前 治療のため定期的に通院していたが、病名告知後すっかり元気をなくし、ひきこもりがちになる。
- 1か月前 I 総合病院の相談室がうなぎさんに介護保険の申請を勧めたが、同席していた妻の要領を得ない話しぶりを心配し、地域包括支援センターへ連絡をする。
その後、地域包括支援センターが妻へ連絡をしたが、やはり要領を得ない話しぶりに認知症を心配し、次男と連絡をとり自宅に訪問する。
当初は、うなぎさんの介護保険申請についての相談であったが、何回か相談を重ねる中で様々な問題を抱えている家族であることがわかる。

うなぎさん家族の状況（抱えている問題等）



地域包括支援センターが次男C男から聴取した情報

父は、高校卒業後、市内の自動車関係の会社に就職。仕事熱心でまじめであったため、上司からも頼りにされていたようです。定年退職を迎えるころには役員を務めるまでになっていました。反面、仕事中心の人で、小さい時、父に遊んでもらった記憶はほとんどありません。

そんな父に対して母は、文句一つ言わず、家庭を守るのが自分の役割と考えていたと思います。

父は、自分が高校卒業で苦労した経験もあってか、私たちの教育には熱心で、小さい時から、大学だけは出るようにと耳にタコができるくらい聞かされました。私も兄もどちらかというと勉強はできる方だったので、父は安心していたと思います。まあ、父にいろいろ言われなくなかったのも、私も兄も勉強していたと思います。ただ、兄に対しては、特に厳しいところがあったので大変だったかもしれません。以前、兄と話した時、「本当は大学にいきたくなかった」と話していました。

もともと兄は小さい時から自然が好きで、高校卒業後は農家に就職して、農業をやりたいと話していました。しかし、父はその考えには猛反対で、「今からは農業では食べていけない」「都内の大学に進学し、一流企業に勤めなさい」と強く言われ、結局都内の大学に進学しました。大学卒業後は、都内の外資系企業に勤めましたが、うつ病となり20年前に仕事を辞め浜松に戻ってきました。

母は、兄が仕事を辞めて実家に帰ってきた時、「私があの時、お父さんに『B男がやりたいことをやらせてあげましょう』と言っていれば、こんなことにはならなかった」「B男がこんな風になったのは私に責任がある」と自分のことを責めていました。

母は、毎日のように兄が好きな料理を作り、何か必要な物がないかと兄に聞いて買いに行くなど、つきっきりで面倒をみていたようです。しかし、父は兄に対して「怠け心があるからこんなことになるんだ」「早く次の仕事を見つけて死ぬ気で働けば、うつ病なんて治る」と言い、病院には受診させませんでした。

兄は、20年前に実家に戻ってきてからは仕事をしておらず、自室でインターネットやゲームをして過ごすことが多く、ゲームで課金をしては、父の口座からお金を使っているようです。

妻は、そんな父や母のことを心配して、家事や手伝いをやってくれています。たまに仕事が終わった後に母のところに寄って、一緒に買物に行ったりしてくれているようです。しかし、妻は軽度の知的障害があり、家事などにやや時間がかかるため、最近では、娘がうちの家事に加えて、父や母の手伝いもやってくれています。

私も、父母や兄のことは心配しているのですが、自分の家庭も大変で、仕事で朝早く出勤し遅くに帰ってくる生活のため手伝うこともできず、この先どうしたらいいのか困っています。

グループワーク

地域包括支援センターが、次男から把握した情報等に基づいて、グループで意見交換し、ワークシートにグループの意見を記入してみましょう。

それぞれの立場で、この事例をどのように見るか、どこに着目した支援を考えるか、そのために今後どのようなことができそうかについて意見交換してみましょう。